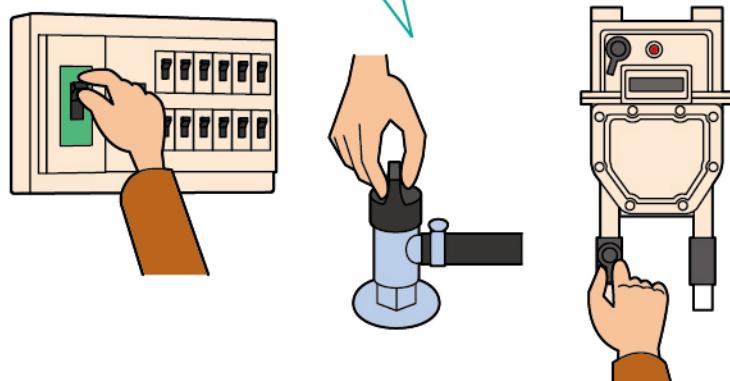


## 8 避難の前に電気のブレーカーを落とす、施錠するなど、なすべきことを知っていますか？

避難するために家を空ける前に、二次災害を防止するためにすべきことを確認しておきましょう。

- 空き巣や、火災の延焼を防ぐため家の戸締まりを忘れずに！
- 家を出るときには、忘れずに、ガス・水道の元栓を閉める。
- 電気が復旧した時に、壊れたり倒れた電化製品に通電して火災が発生することを防ぐため、電気のブレーカーをOFFにする。（感震ブレーカーの取り付けも効果的）
- 探しに来た人に無事を伝えられるように、玄関に「全員無事です」といったメモを貼りましょう。



### 備え&ポイント!

万が一火災が発生した場合は、あわてずに、可能であれば避難経路を確認した上で初期消火をしましょう。火が自分の身長と同じ高さを越えると、消火は難しくなると言われています。天井に火が届いたら、無理をせずあきらめて避難をしましょう。



## 9 台風や地震など、災害事象別に避難する場所とそこまでの安全な経路を決めていますか？

避難する場所を確認し、そこまでのルートを家族で決めましょう。地震や風水害など災害の種類によって、避難する場所はいつも同じとは限りません。また、避難する場所は家族が別々の場所で被災した時の集合場所になります。避難経路を確認するために、家族みんなで実際に歩いてみましょう。途中、ブロック塀や自動販売機などの場所を地図にメモして、危険を予測しましょう。避難経路がふさがった場合の迂回路も確認しておきましょう。



### 備え&ポイント!

避難する場所の利用用途は、災害の規模や種類によっても違ってきます。いざという時、家族で避難するための場所を確認しておきましょう。

#### ●指定緊急避難場所

市町村が、災害の種類に応じてその危険の及ばない場所・施設を指定します。必要に応じて指定緊急避難場所の中から一時避難場所や広域避難場所を選定します。

#### ●一時避難場所

危険を避けるため、ひとまず身を守るための場所。近所の広場や公園、空き地など。



#### ●広域避難場所

一時避難が危険となるような延焼火災が発生した場合に身の安全を確保するための場所。周辺に建物の少ない大規模な公園や競技場など。



#### ●津波避難ビル

津波から避難するときに、近くに高台がない場合は一時的な避難場所となる「津波避難ビル」に逃げましょう。愛知県内でも、東日本大震災の後、津波避難ビルの整備・指定が進められています。

#### ●避難所

被災により自宅などで生活できない方を一定期間受け入れるための施設。地域への公的支援の拠点となる場所です。



#### ●福祉避難所

主に公的施設のほか、指定の民間福祉施設などです。

要援護者や障がい者が必要な生活支援が受けられる体制を整備した避難所です。